

家庭学習の手引き(2年生)

自学自習を習慣化し、学習スタイルを確立しよう。

家庭学習時間の目安：90分～120分

| 教科 | 毎日すること | 学習のポイント・自主勉強の仕方 |
|----|---|--|
| 国語 | <ul style="list-style-type: none"> ☆ 漢字練習(二百字帳)授業日に1ページ宿題をする。 ☆ 教科書の音読(本読み)をする。 ※ 宿題は必ずする。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 漢字テストの範囲の漢字を二百字帳に〈正確に・丁寧に〉書く。 ○ 学習している教材文を繰り返し音読する。 ○ ワークの語句調べをする。 ○ 「漢字の学習」を進める。 |
| 社会 | <ul style="list-style-type: none"> ☆ ノートの見直し。 ☆ 教科書を読む。 ☆ 新聞、ニュースに目を通す。 ☆ 目につくところに地図や年表を貼っておく。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ ワークや宿題プリントを繰り返し解く。 ○ 重要語句が書けるようになる。説明できるようになる。 |
| 数学 | <ul style="list-style-type: none"> ☆ わからないところを空白のままにしない。 ☆ 質問する。 ☆ 宿題は授業のあった日にやっておく。 ☆ 反復練習を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 間違えた問題を解き直す。 ※ 間違えた問題は大事です。どこをまちがえたのか確認しよう。 |
| 理科 | <ul style="list-style-type: none"> ☆ 教科書を読み込む。 ☆ ワークやプリントの問題を繰り返し解く。 ☆ 自主学習ノートに取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ どこに何が書かれてあるか覚えるくらい教科書を熟読する。 ○ 1度解いた問題は、答えを覚えるくらい何度も解き直す。 ○ 重要語句や実験・観察の注意点などをノートにまとめる。 |
| 英語 | <ul style="list-style-type: none"> ☆ 原則1日1ページ練習 (内容は指示に従う。) | <ul style="list-style-type: none"> ○ 目で見るだけでなく、声に出して覚える。 ○ ワーク類や授業プリントの問題を繰り返し解き直す。 ○ 新出単語、重要語句を覚える。 ○ 英検に挑戦する。 ○ 授業の準備物や宿題を絶対に忘れないことが一番大切です。 |
| 音楽 | <ul style="list-style-type: none"> ☆ メディアに流れている音楽番組を聞いてみる。 (NHK-FMは早朝、昼、晩と一日中良質な番組を放送している。) | <ul style="list-style-type: none"> ○ 時々自分のパートを思い出し歌う。 ○ ワークを覚える。 |
| 美術 | <ul style="list-style-type: none"> ☆ 生活の中の美術の動きなどを感じる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 美術作品などのよさや美しさを感じ取る。 ○ 美術を通して国際理解を深める。 |
| 技術 | <ul style="list-style-type: none"> ☆ ものの仕組みや構造などに興味をもつ。 ☆ 授業での学習内容を生活とのつながりについて考える。 ☆ 学習内容を、生活にどのように生かしていくのかを考え実践する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 事前に教科書を読んでおく。 ○ 前回の授業を思い出して授業の準備を確実に行う。 ※ 詳しいことは、授業で先生から説明を受けた通りです。 |
| 家庭 | <ul style="list-style-type: none"> ☆ 朝ご飯をしっかり食べよう。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 主食・主菜・副菜など、バランスよく摂取できるようにする。 ○ 教科書を読み、ノートを見直す。 |
| 保育 | <ul style="list-style-type: none"> ☆ 教科書、保育ノートの見直し。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書、ノートを覚える。 ○ 部活動や習い事(運動)等に一生懸命に取り組む。 |

- ◇ 先生からのアドバイスを参考に、自分で学習計画を立てて取り組もう。
- ◇ 始める時間と場所を家の人に宣言して効率よく取り組もう。
- ◇ 課題(宿題)の次に復習、最後に予習を行い、不得意科目の克服に努めよう。
- ◇ 分からないことはそのままにせず、必ず先生に相談しよう。

